

2008-3-17

TMPCWA 委員長 エド・クペロ

フィリピントヨタ労働者に対するトヨタの労働組合敵視政策にかんし、我々が日本の OECD コンタクトポイントに訴えを提起して以来3年以上経過している間に、我々は OECD NCP の職員と既に5回以上の会合を持ってきましたが、トヨタの傲慢な振舞いを是正あるいは予防し、かつ、トヨタが、企業の社会的責任やコンプライアンスを標榜しながら、その実その労働者に対し、とりわけフィリピンにおいて、正反対のことは行なってすべての人々を愚弄しているのを止めさせるために、OECD NCP がどのような措置を講ずるのかについて、依然として貴事務所からはなんら明確な回答がありません。

貴事務所が、昨2007年9月、わが組合の代表者および日本の支援する会と行なった会合において、我々は、日本の OECD NCP はフィリピンにおける裁判事件が終結するまでは一切いかなる措置も講じないという、したがって結局のところ全く何もしないことになる、そのような悪質な態度をけっして変えようとしていないことを知りました。OECD NCP の職員はもうこれ以上仕事を続ける信用がありません。なぜならば、真の社会的責任を推し進めるようにガイドラインを実施し、労働者と多国籍企業との間の重大な問題の解決策を見出すのではなく、本当の出来事を公衆にひた隠すために企業の手先に成り下がっているからです。

我々はまた、去る2008年2月25日に、OECD が、日本で開催されることになっている G8 サミットへの準備として、東南アジアにおけるガイドラインの役割を高めるためのシンポジウムを日本の東京で開催したことを知りました。それについて、我々は、日本が組合敵視の振舞いを犯している点で最悪の悪名高い実績を残していることを見ましたが、それだけでなく、我々はトヨタが一番の組合潰し屋であることを知っています。TMPCWA の指導者たちが軍隊のいやがらせを味わわされてきているこの重大な時にトヨタは労働者の権利を抑圧するためにフィリピンの大統領さえも指図することが出来るのですから、我々は、トヨタの思いあがった振舞いに対して OECD の職員が何もなすすべがないからといって、驚きはしません。第202歩兵旅団の軍分遣隊が TMPCWA の組合事務所の直ぐ近くに配備され、我々は不当にも数回にわたり監視を受けてきました。第202歩兵旅団の制服軍人が、我々の事務所にやって来て、指導者たちの所在を訊きました(2008年1月24日および2月28日)。去る2008年3月4日には、4名の軍人が我が組合事務所を、あらゆる角度から写真撮りました。我々は今、生命の危険を大変恐れています。それはこの地域のすべての労働運動指導者たちに対する脅威が常にあるからであり、その脅威とはまさしく去る月曜日(2008年3月10日)に、カビテで EMI 矢崎の元組合委員長に起きた事件のような脅威にほかなりません。(このことについて、添付の糾弾声明を見て頂きたい。)

さて、今回予定されている我々の支援する会の OECD 職員との会合について申し上げます。我々は、これまでと同じように、なんら新しい情報を期待してはおりませんが、TMPCWA は、日本の OECD、とりわけ常にトヨタの味方をしている堤 尚広氏の無能性を引き続き暴露していくことを、日本の OECD の職員に喚起しておきたいと考えます。貴殿は、ガイドラインの実施にかんする貴殿の職務をまっとうに真性に行うことが出来たときに、はじめて尊敬を得ることが出来るでしょう。